

4. 日本語教育学位取得プログラム

本プログラムは、高度の専門性と国際性を備えた日本語教育者を養成することを目的として、2005年4月に当時の留学生センター、言語社会研究科、国立国語研究所の3者が連携する連携講座として、言語社会研究科の中に開設されたプログラムである。日本語教育の専門的な知識や技能にくわえ、日本語学の素養、日本の社会と文化に関わる幅広い知識を身につけた日本語教育者を輩出している。

2007年4月には定員4名の博士課程のプログラムも設置され、2016年3月末現在、18名の博士学位取得者が生まれている。2015年度の博士学位取得者は、以下の5名である。

李 尚美 (イ サンミ 韓国)	(2015年5月) <イ研究室>
原田 幸一 (はらだ こういち 日本)	(2015年6月) <石黒研究室>
全 美炷 (ジョン ミジュ 韓国)	(2015年7月) <庵研究室 (前川研究室) >
喬 曉筠 (キョウ ギョウイン 台湾)	(2015年7月) <石黒研究室>
黄 均鈞 (コウ キンキン 中国)	(2016年3月) <西谷研究室>

日本語教育学位取得プログラムの概要

定員 10名 (修士課程) 4名 (博士課程)

学位 修士 (学術) 博士 (学術)

授業担当者

コアスタッフ (演習を担当し、指導教員となる教員)

国際教育センター：庵 功雄、太田陽子、五味 政信、西谷まり、柳田直美

言語社会研究科：イ・ヨンスク、松原 真

国立国語研究所：石黒 圭、小磯 花絵、山崎 誠

サポートスタッフ (講義を担当する教員)

国際教育センター：阿部 仁、太田 浩

経済学研究科：今村 和宏

国立国語研究所：アンナ・ブガエワ

非常勤講師：山田 泉

表1 2015年度本プログラム修士課程入学試験志願者・合格者内訳

	受験者	合格者	入学者
一般	8	3	3
留学生	30	5	5
日本語教育経験者	7	4	4
合計	45	12	12

4. 日本語教育学位取得プログラム

表2 2015年度本プログラム博士課程入学試験志願者・合格者内訳

	受験者	合格者	入学者
進学	5	5	5
編入	2	1	1
合計	7	6	6

表3 日本語教育学位取得プログラム科目（言社研・国語研科目は除く）

科目（担当教員）	コマ数	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語教育学講義Ⅰ （西谷）	1コマ ／週	日本語教育の教授法や教案作成法などを概観し、模擬授業を行って、教育現場の現場ですぐに生かせるような教育の実践力を身につける。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅱ （太田（浩））	1コマ ／週	日本の留学生政策とその実践を中心に、国際的な学生の流動化に関するマクロ的動向とそのダイナミズムを学ぶ。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅲ （阿部）	1コマ ／週	異文化・多文化理解教育にて使われる参加型学習法の実践を体験し、教育や研修分野での実用性を検証する。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅳ （阿部）	1コマ ／週	異文化理解教育者としてのビジョンを明確にし、実践、検証、内省のサイクルを通じて、異文化対応能力の向上を狙う。	冬学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅴ （今村）	1コマ ／週	日本語教授法の基礎を固め、自立的な教育研究が行えるように、日本語学や教授法の基礎概念と、教室活動の実践について講義する。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅵ （山田）	1コマ ／週	日本語教育を、それを取り巻く社会状況との関連でとらえた内容を講義する。	冬学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅶ （太田（陽））	1コマ ／週	日本語教育文法をテーマに、これまでの研究の流れと現状の問題点を知り、教育活動のために必要な「文法の見方」を身に付ける。	夏学期開講 30時間
日本語学講義Ⅱ （庵）	1コマ ／週	現代日本語について、文法を中心に、様々な角度から検討する。「日本語がわかる」というのはどういうことかについて考える。	夏学期開講 30時間
日本語学講義Ⅲ （柳田）	1コマ ／週	談話分析について、データ収集方法、文字化の方法、分析方法などの基礎を学ぶ。	冬学期開講 30時間
日本語学講義Ⅳ （庵）	1コマ ／週	日本語教育文法や習得研究のツールとしてのコーパスの使い方を学び、データの集計方法や統計に関する基本的な知識を獲得する。	夏学期開講 30時間
日本語教育実習Ⅰ （西谷）	1コマ ／週	国際教育センターのHGPの授業において、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。	冬学期開講 30時間
日本語教育実習Ⅱ （太田（陽））	1コマ ／週	国際教育センターのHGPの授業において、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。	冬学期開講 30時間
日本語教育実習Ⅲ （柳田）	1コマ ／週	ベトナム・ホーチミン市師範大学の教育実習の、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。	冬学期開講 30時間
日本語教育実習Ⅳ （庵）	1コマ ／週	台湾・東呉大学の教育実習の、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。	冬学期開講 30時間
演習 （庵）	1コマ ／週	博士論文の指導を中心とする。学会誌論文を執筆することを念頭に置き、実践的な論文指導を行う。	通年開講 60時間

科目 (担当教員)	コマ数	授業内容・到達目標	時期・時間数
演習 (太田(陽))	1コマ /週	教育文法・教材分析などを中心に各自のテーマに合わせ、指導を行う。	通年開講 60時間
演習 (五味)	1コマ /週	日本語教育の実践的な方法について、とくに初級の学習者を対象とする直接法を中心に、その方法を議論する。	通年開講 60時間
演習 (西谷)	1コマ /週	日本語教授法、教育実験計画法などを中心に指導を行う。	通年開講 60時間
演習 (柳田)	1コマ /週	談話分析・会話分析の実践を中心に指導を行う。	通年開講 60時間

【日本語教育実習】

実施日：冬学期

実施場所：一橋大学国際教育センター

参加者：教育実習Ⅰ（西谷） 3名 教育実習Ⅱ（太田(陽)） 4名

指導教員：西谷まり、太田陽子

【春季海外教育実習・ベトナム】

実施日：2016年3月6日（日）出発～3月20日（日）帰国の全15日間

実施場所：ベトナム・ホーチミン市師範大学

参加者：3名

指導教員：柳田直美

【春季海外教育実習・台湾】

実施日：2016年3月2日（水）出発～3月16日（水）帰国の全15日間

実施場所：台湾・東呉大学

参加者：5名

指導教員：庵功雄

※なお、海外教育実習開催にあたり、国際交流基金より実習生の一部に奨学金を支給していただいた。記して感謝申しあげる。

(文責：庵 功雄、太田 陽子、西谷 まり、柳田 直美)